

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和特別支援学校（知的障がい部門）

評価・提言等	提言に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を利用した活動が積極的に行われている。またリモートでの他校交流を行い、児童生徒が教室にいながら、さまざまな刺激を受けることができている。今後は、一人一人にあった教材をタブレット端末で学習できる体制づくりを目指してほしい。 <p>(2) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよい挨拶や朝の清掃活動等の指導が行き届いている。熱心な支援を感じることができている。今後はより一層、自己肯定観を高める生徒指導に努めていただきたい。 <p>(3) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者に対しては、進路だよりや進路の手引き等の各種資料配付や情報提供を通して、個のニーズに応じた進路実現が図られている。今後は小学部・中学部と高等部が連携して、発達段階に応じたキャリア教育をより充実させてほしい。 <p>(4) センターの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南予唯一の特別支援学校として、近隣学校への相談支援や研修支援など、センター的機能を充分果たしている。新型コロナウイルス感染症の対策として、ホームページ上で詳細な情報発信がなされている。 <p>(5) 学校安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害や場面を想定した各種訓練が実施されるとともに、緊急時対応マニュアルの改善も図られていた。遊具等の危険箇所も含め、防災や学校安全に関連した掲示・表示等が工夫されていた。 <p>(6) 働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で業務が増加していると思うが、時間外勤務が減少し、働き方改革は進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した指導だけでなく、ICTを活用した評価について工夫するなど、今後も児童生徒が主体的に学べるように教材の研究や教員の研修を行う。 ・児童生徒の個に応じた挨拶の表現方法を共有し、教職員が一貫性のある指導に努める。校外学習を見直し、多様な活動ができるよう内容を工夫する。 ・小学部・中学部の保護者にも配慮した進路情報を発信し、より一層、高等部との連携を図っていききたい。 ・関係機関と連携し、教師の指導力を向上させ、技能検定対策を強化する。 ・市町の教育相談や連携協議会で支援や相談に応じることができる人材の育成と専門性の向上に努める。 ・教育活動を詳細にホームページ上で発信することで、特別支援教育への理解を深める。 ・より実践的な訓練を行うとともに、緊急時対応マニュアルを今後も改善していく。施設・設備・遊具については、定期及び災害後の点検を確実にを行い、安全安心な環境の保持に努める。 ・完全退勤日やノー残業デーの着実な実施をするとともに、グループウェアを利用することで、教職員が一堂に会する機会を減らす。